第１回文化財講演会（重要文化財指定答申記念　香取神宮文書とは何か？）　2026．9．26

幕末維新期地域文人の香取文書調査と保存

酒井右二

於：小見川市民センターいぶき館

は　じ　め　に―文化庁ＨＰから　その評価の側面

「中世東国社会の実態を伝える希有な史料」

「江戸時代後期以降の当該地域における史料保存の試行的な取り組みをうかがうことができる」

↓

「本文書は、神社史や地域社会史、経済史、古文書研究上の貴重な史料が数多く伝存しており、学術的な価値が高い。また、中世史研究上のみならず、アーカイブス学上においても重要である。」

近世期における地域文人（清宮秀堅　色川三中を中心に）の香取文書調査やその保存活動をみていく

１　近世後期に至る地域の香取文書調査

○**久保木清淵**　津宮村名主　漢学　孝経研究　　『香取参詣記』文政11(1828)年刊　「香取私記」

水戸藩延方郷校の講師も務める―小宮山楓軒（彰考館→南郡奉行：史学と農政）との関係　棚木家の問合せから

小宮山楓軒『楓軒文書纂』（全95冊）に収録される香取古文書の写（12冊）（鈴木哲雄『香取文書と中世の東国』）

清淵の写　第8冊 分飯司家　源太祝家（文化13(1816)年）　第11冊　大宮司家　西光司家（文政11(1828)年）

○**本城桃齋**（1804(享和 4)～明治元(1868)）佐原下仲町　私塾　俳諧　剣術（浅山一伝流）

＊色川三中本　録司代家文書註に「佐原村本城某」と記される

録司代家文書　永正10(1513)年「香取社造進注文写」一部筆写（当家文書「桃齋書簡集一」天保 9(1838)年頃書状）

ほかに「香取神秘写」　←スライド

○**小林玄蕃**（西光司家）佐原濱宿旧持福院跡石碑あり

当家文書以外にもほかの社家文書やその写し（録司代家田所家など）　（鈴木哲雄『香取文書と中世の東国』）

＊また「佐原村旧記　小林玄蕃所蔵」（清宮家文書中にその写本）　地域の古文書を調査している蓋然性が高い

２ 色川三中と清宮秀堅の香取文書調査と保存　＊ともに土浦と佐原の商人学者

（１）清宮秀堅の香取文書調査

＜目的＞下総志（序文〈弘化 2(1845)年〉「下総国旧事考」へ帰着）編纂のため

＜調査の展開＞

表１　軸装された「香取文書」軸Ａ(文9-6）の史資料一覧　←スライド

小番	表題	年代	西暦	月	日	原所蔵	現所蔵	備考
1	源頼朝寄進状（福田郷）	治承 5	1181	10		大禰宜家文書	香取神宮文書	文字輪郭線透写
2	足利尊氏寄進状（戸頭郷）	観応 3	1352	7	13	大禰宜家文書	香取神宮文書	文字輪郭線透写
3	豊臣秀吉印判状			6	28	大禰宜家文書	大禰宜家文書	文字輪郭線透写
4	大江山酒呑童子絵詞					大禰宜家文書	大禰宜家文書	綴Ａ12・13にあり
5	関白前左大臣家政所下文	建永 2	1207	10		大禰宜家文書	大禰宜家文書	
6	鎌倉幕府下知状（前欠）	承元 3	1209	3	17	大禰宜家文書	大禰宜家文書	
7	毘沙門天像（刷物カ）							注記なく出所不明
8	神号額銘「正壱位勲一等香取大明神」拓本	文永 8カ	1271			（拓本所蔵新福寺カ）	香取神宮	右上端部欠損　下総舊事香取郡１掲載
9	寺号額銘「香取新福寺」拓本	文永 9カ	1272			新福寺蔵		
10	遷宮用途雑物注文（前欠）	保元 3	1158	11	11	大禰宜家文書	香取神宮文書	
11	鎌倉幕府下知状	承久 3	1221	10	29	大禰宜家文書	大禰宜家文書	
12	大禰宜長房訴状	応安 5	1372	11		大禰宜家文書	大禰宜家文書	
13	神幸祭絵図（巻首部分）	永正13カ	1516			大禰宜家文書	権検非違使本	
14	青山延宇「大禰宜家文書箱書」	天保 5以降	1834			大禰宜家	大禰宜家	
15	大禰宜実隆置文	永禄10	1567	9		大禰宜家文書	大禰宜家文書	
16	道地経一巻（部分）并端書カ	建長 7	1255	11	9	香取神宮経蔵カ	国立歴史民俗博物館	
17	大般若経巻一百三十三（部分）并奥書カ	建保 3	1215	11		香取神宮経蔵カ	成田山仏教図書館	
18	梵鐘名　拓本	至徳３	1386	10		香取神宮寺	藤沢市御霊神社	
19	神宮懸燈籠　拓本	永享12	1440	12		惣検校家		
20	大般若経巻五百七十（部分）	永徳元	1381	9	26	香取神宮経蔵カ		

表２　香取文書関係綴Ｂ（文10-44-8）史資料一覧　←スライド

小番	表題	年代	西暦	月	日	原所蔵	備考
1	新福寺宛飯篠山城守盛綱寄進状	永禄 9	1566	11	26	新福寺	
2	飯篠山城守盛綱夫妻木像図					新福寺	
3	香取大明神御供釜図並び縁書	天文17	1548	9			下総舊事　香取郡１掲載
4	神宮懸燈籠図並び拓本	永享12	1440	1		惣検杖家	軸Ａ-19に拓本部分
5	沖宮所懸鉄鈴図並び拓本	建久 3	1192	9		某氏	
6	又見社図						
7	十二月廿五日御札下神事の図						
8	御田植祭早乙女図						
9	庭上燈籠仏図						
10	修正会次第抜書						
11	一切経袖書カ	建長 7	1255	11	9	香取神宮経蔵カ	軸Ａ-16と同文
12	源頼光変化等の田楽を見る図					大宮司家	色川筆写本とは異なる。詞書は軸Ａ-4と同文
13	酒呑童子最期の図						
付	挿入文書（各種祭祀行事次第書上）						

＜成果＞　←スライド

「下総旧事」へ一部収録

「香取年録草稿」

『**香取新誌**』序文　明治十年　香取神宮とその関係事項について講話したものを門人達がまとめて出版

（２）色川三中の香取文書調査

＜問題関心＞　本草学、歌学から　土地制度史　税制研究へ

水戸藩天保改革における検地政策をめぐる態度―土浦藩豪農出身の農政家長島尉信への批判

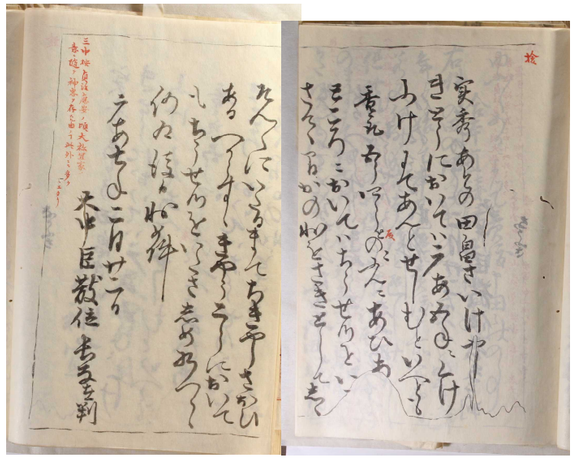
近世の太閤検地による高率年貢負担←→古代の律令税制における低率な租

その間の中世における歴史的経緯を解明したい―香取文書は中世の在地実態がわかる希有な史料

＜調査事例＞　香取の現地調査　弘化 2(1845)年～嘉永元(1848)

図　色川三中から清宮秀堅へ提供された香取文書の写

（要害[検杖]家文書応安７(1374)年２月22日大中臣長房安堵状案）



社家の略号「検杖家（要害家）」

虫喰いまで形態も謄写する

三中の朱字での註記

小宮山楓軒あるいは和学講談所から学んだカ

（中井信彦　学問と思想篇）

＜地域文人ネットワークによる協同研究＞　書籍や資料の貸借　文人紹介　見解の交換

葛井文哉（漢学　度量研究）と秀堅と三中

文化8年生～嘉永2年没、39歳。桐生に生れ名は温。佐藤一斎門下。佐原で私塾を開く。国史，医術，天文などに通じ，和歌，俳諧にもすぐれた。著作に「中庸発蒙」「彗星略説」「傷寒論摘説」など。稿本「制度通増補」。

㋮律令制における丈量単位の変化　１段＝３６０歩←２５０歩

（『千葉県の歴史』資料編近世６　910号史料　以下「県史」と略称）

＜成果＞

○「香取古文書纂目録」上下２冊（清宮家所蔵）　←スライド

○「香取文書纂」６５冊（静嘉堂文庫所蔵）＋天正文禄検田帳　図版　補遺　など

○その他田制研究　「田令図解抄」「度量衡考」

（３）清宮秀堅の香取文書保存活動　嘉永４(1851)年　三中の作成した香取文書目録に則して装幀

○録司代家からの書状　←スライド

（端裏封表書）
「清宮利右衛門様　香取左織
帷下　」

蒸暑難勝御座候処、先以
御清適ニ御起居被遊候事、欣
悦之至ニ奉存候、然ハ家蔵文書六
被懸御心頭、装潢被成候段
万々難有奉拝受候、右様
相成候上者、虫蝕之憂を相免れ
永々後代江相伝可申候、誠ニ
恩恵之余り子孫迄も不浅
申伝可申候、相続而案主家
御取懸り可被下之段、是又重畳
之儀ニ奉存候、乍併右主人一両日他行
仕候而未夕帰り不申、不日帰宅可仕候間
右様思召可被下度候（ママ）、帰宅次第
早々私方ゟ持参、御願ひ可申上候
一、文書目録之儀、是亦承知仕候、
何れ宮内子江相命し可申候、
尚縷々御礼等申上度、晩景故先者
御答已申上候、書外拝謁之節
可奉申上候　謹言
廿四日

○録司代家文書裏打の領収書

覚
一、録司代家文書　壱　弐
　紙員　八拾五枚
一、同　三　四
〃　九拾五枚
一、香取大神宮検田取帳
〃　二拾八枚
一、香取大神宮神畠検注帳
〃　廿弐枚
一、注進香取社造進注文事
〃　九枚
一、司召
〃　四枚
　〆紙員弐百四拾三枚
一、銀廿八匁　手間七人
一、〃八匁四分　裏打紙
一、〃弐匁　寒のり代
一、拾六文　しぶ
　〆銀三拾八匁四分
　鐚拾六文
右之通り不残頂戴仕候
以上
亥
六月廿三日　経師
利兵衛㊞
清宮様

→スライド（装幀された録司代家文書）

○社家からの礼状

覚
一、此度者御地頭所為
武運長久所蔵文書
裏打被下忝存候、為念
如斯御座候、以上
亥五月廿三日
田所
伊藤縫殿㊞
清宮利右衛門殿

５月２３日	田所	伊藤縫殿　㊞
６月２４日	香取神官録司代	香取左織豊坂(書判)
８月２４日	香取神官案主	香取主殿実保(書判)
１２月　３日	物忌職	石上兵庫　㊞
１２月　３日	香取神官権之介	尾形平馬　㊞
１２月　３日	香取神官源太祝	香取織衛　㊞

註）差出人表記は原文のまま

○修復代金

修復の内訳・総額書上				経師領収綴		
日付	文　書	記載金額(金)	(銭)	日付	領収金額(銀)	(銭)
5月22日	田所	2分2朱	413文			
6月22日	録司代	2分2朱	112文	6月23日	38.4匁	16文
〃	〃		500文			
7月20日	新福寺		1595文			
8月20日	案主家	1両2朱	263文	8月22日	70匁	
12月晦日	源太祝　物忌　権之介	2分	722文	12月2日	37匁	
	計	2両3分2朱	3605文			

（４）清宮秀堅の香取文書に関する刊行企画

○「下総志」の刊行延期　＊後　孫の堅実の手で『下総国旧事考』明治38(1905)年刊

弘化５(1848)年２月５日付色川三中宛清宮秀堅書簡（静嘉堂文庫色川三中来翰集4-9：県史　888号史料に収録）

「拙著下総志も香取ハ別物ニいたし、文書も先目録のミを編入之積ニ御座候」

香取文書は 大量なので、「下總志」には史料目録だけを収録したいとしている。秀堅は、弘化２(1845)年に序文を記しているが、三中の香取文書調査によって、その成果を自著に取り入れたいとしている。

○「香取文書目録」刊行を企図　←三中の調査成果を受けて

嘉永２(1849)年８月14日付色川三中宛清宮秀堅書簡（県史921号史料）

「過日御借用香取文書目録之儀、幸小生方ニ平山と申医師より押付けられ候活字五千位もこれ有、右を社蔵ニいたし、先文書目録より相始め・・・・」

木活字を準備して少部数でもまず目録から始めて刊行していく

香取神宮当局への働きかけ（前出香取左織書状からも）

＊『地方新書』　三中との協同研究の成果　←スライド

秀堅は「経邦或考」（序文　弘化４年）という書名で、田制、度量権、貨幣その他の研究をまとめようと計画していた。度量権の部が元老院から『地方新書』として出版され、後に家蔵版で田制の部を刊行した

お　わ　り　に―明治期における刊行事業

○『香取古文書目録　全』明治17(1884)刊行　編纂　故人色川三中　校補兼出版人　伊藤泰歳（香取神宮禰宜）

○『香取神宮文書纂』明治39(1906)年　色川三中原稿を拡充　伊藤泰歳編集　本書18巻　目録1巻　全16冊

香取神宮社務所蔵版　朝野利兵衛発行　清宮堅実資金援助

＊在方町 商人たちの文人的基盤の厚み

＜主要参考文献＞

中井信彦「色川三中の香取文書調査について」(『古文書研究』第23号1984年)

中井信彦「清宮秀堅の色川三中宛書簡について」(川村優先生還暦記念会編『近世の村と町』吉川弘文館1988年)

中井信彦『色川三中の研究　伝記篇』塙書房1988年　『同　学問と思想篇』1993年

鈴木哲雄『香取文書と中世の東国』同成社2009年

佐藤裕貴子「清宮家の書状―清宮秀堅の交友関係を中心に―」(『千葉県史編さん資料　千葉県地域史料現状記録調査報告書　第6集　佐原市清宮利右衛門家文書（続）』同2000年)

拙稿「幕末維新期の在方町文人清宮秀堅―その生涯と著作―」(『香取民衆史』第11号　香取歴史教育者協議会　2022年)

拙稿「清宮秀堅の香取文書の保存活動―嘉永４(1851)年「香取文書裏打書類」を中心に」(研究代表者 鈴木哲雄『香取文書調査報告書 香取文書の文化財としての保存に向けた基礎的研究』2024年)

拙稿「清宮秀堅による香取文書関係史資料の蒐集」(研究代表者 鈴木哲雄『香取文書調査報告書(2) 香取文書関係資料の文化財としての保存に向けた発展的研究』2026年)